

令和7年度林業イノベーションハブ構築事業

第2回デジタル分科会 議事概要

日時：2025年10月22日（水）10:00～12:30

場所：東京都千代田区六番町7番地 日林協会館 3階 大会議室（Web会議併用）

(1) 今年度の3地域まとめ

- デジタル林業戦略拠点3地域の横展開については、現在の取り組みをより広域に広げていくことと、新たな地域で取り組むことの双方が求められていると考える。
- 北海道での取組を通じて開発されたSCMシステムは、今後、市販化されることとなるが、北海道以外の地域での展開も含め、システムの利用者数や課金方法などが実現可能な形で計画され展開されることとなれば、本事業の有意義な成果となると思う。
- 今年度の静岡の取組は、県中部・西部での活用を加速させることであり、年度末に向け、取組と効果検証を進めてほしい。
- 鳥取の取組は、他地域からも参考となるシステムが構築されており、年度末の報告では、例えば、取組みのフェーズごとにどのような体制を構築し取り組んだかなど他地域に有益な情報を盛り込んでほしい。また、流通の下流まで裨益する取組みであり、報告会で幅広い参加者に取組みを伝えることで、こうした取組に多くの立場から協力が得られるようになると思う。
- 各システムが実地で使われ、データの蓄積が進むとサプライチェーンの可視化、定量的な分析、最適化へと段階的に進展し、地域の林業に明るい未来が見えてくるという印象を持った。
- 2月のシンポジウムでは、地域に導入された様々なシステムについて、開発者等から紹介する機会を設けることも有効ではないか。

(2) デジタル林業実践事例調査および分析

事務局より、群馬県森林組合連合会及び高知県仁淀川町の取り組みを紹介するとともに、取組内容に関する質疑を行った。

- デジタル化の効果検証にあたっては、紙伝票の廃止や日報管理などの『作業が楽に

なる』にとどめるのではなく、具体的な利益に結びつく段階まで高めることが必要である。投資の回収を超えて収益を向上させることができれば、業界の活性化につながる。

- 効果検証の数値は、可能な限りシステム内のデータに基づき算定できることが望ましい。
- 地域によって構成員が異なり、取り組むこととなった経緯や取組みを進めるモチベーションも異なることから、分析して類型化して整理することが望ましい。

(3) デジタル林業戦略拠点づくりガイドブック

①地域のメンバーを集める（地域の木材流通の構造）

- 地域の将来像を考えるにあたって、どのような視点を持たなければいけないかを示すことが重要。具体的には、需要と、連携する主体、効率化に取り組みたい資源の3点から、自地域の構造を図化し考えていくことが必要。
- 地域の流通の構造は、現状を図化することと、将来あるべき姿を構想することの双方が必要であり、地域で一から描くことは難しいので、フローチャートをたどることで類型化されたパターンに当てはまるような現場で使いやすい形で示すことが望ましい。
- 地域のプレーヤーを把握するとともに、需要規模（大規模／中小）、連携・集荷主体（川上／川中／川下）、資源特性（A～D材、銘木、広葉樹等）、木材流通圏の広さといった要素を整理することで、図を作りやすくすることが有効ではないか。
- 類型化にあたって、原木サプライチェーンマネージャーの所在に着目し、独立型、山土場型、集荷ポイント型、需要先型の4パターンで一般化するというのはどうか。
- 商流と物流が一致する場合と、直送によって商流と物流が分離されている場合があること。また、共販所を含む系統集荷のように全体を束ねることによって原木サプライチェーンマネージャーが機能する場合もあれば、あくまでも中立的な立場であることを強調し売り方買い方の損得に立ち入らない原木市場がハブとなっている場合もあり、これらの図化には工夫が必要。
- 原木サプライチェーンマネージャーがSCMシステムの運用主体となることを基本とし、現状、原木サプライチェーンマネージャーがいない場合は将来像をもとに検討

することが必要。また、地域の流通構造によっては、原木はマネジメントするが商流には入らないということも可能性として考えられる。

- 行政主導の取り組みが定着しない要因として中立性や商流に立ち入れない点がある。

②在庫管理の適正化・回転率について

- 在庫回転率の評価対象は山土場に限定せず、木材が滞留する拠点（中間土場・共販所等）を含め、各地域のビジネスモデルで最も木材が集まる地点で評価することが適当である。
- リードタイムや実質輸送可能量の観点を在庫管理に反映することが望ましい。
- 「最適在庫」の図は、需要量（単位期間の搬出量）は一定との前提でも、在庫の持ち方で回転率は大きく変わるということが意図されたものと理解している。先行伐出で滞留するのは悪手、タイムリー伐出・搬出で在庫最小化が望ましいということ伝えたい図であり、計算式の結果と図上の数値表記を合わせると伝わりやすくなるのではないか。

③その他

- コンソーシアムに金融機関を参画することとして事業を始めたが、取組みを通じて得られた成果については、コーディネーターの立場から分かりえない部分もあることから各地域の評価も必要であり、最終報告に向けて整理を進めてほしい。構成員として必須の役割があるわけではないが、専門的な見地からの助言が得られるという観点で参画いただくことがベターはないか。

(4) 現地ワークショップの開催結果

- ワークショップは、参加者が取組の知見、経験を吸収できるとともに、取組地域にとっても他地域からのフィードバックが得られる有意義なものであり、このような知見を共有する機会を継続的に実施することが望ましい。

(了)